

県選出議員

「今こそ、梓組みリード」大沼氏
「食の安全、安心揺らぐ」舟山氏

トランプ次期米大統領がTPPからの脱退を表明し、発効が困難視される中、9日の参院本会議でTPP承認案と関連法案が可決、

成立した。山形選挙区の2氏が大沼瑞穂氏(自民党)が「世界第3位の経済大国である日本がTPPの梓組みをリードしていくことが

重要」として賛成した。舟山氏は大沼氏(民進党・新緑風会)は「発効の見込みがない。予算は執行停止とし、関連法案は廃案にすべきだ

と政府・与党を批判した。本会議の後、大沼氏は山形新聞の取材に対し「TPPの中身を国民に知ってもらうため、63時間にわたる審議で熟慮の末に採決を行った」と振り返った。さらに「米国、英国をはじめ世界が保護主義に陥っている

今だからこそ、世界の経済活動が公正なルールの下で行われるよう世界第3位の経済大国である日本が梓組みをリードしていくことが非常に重要」と強調した。

舟山氏は8日の参院TPP特別委員会、安倍晋三首相をただし「発効が絶望的と言われ、発効を前提とした予算は執行停止にすべきだ」と指摘した。山形新聞の取材に「コメをはじめとする農林水産物の重要5項目を除外対象とするなどとした国会決議が守られていないのは明らか。TPPの基準では食の安全と安心が揺らぎ、国内産業の衰退を招く」と懸念を示した。

国民の思いに反する長沢豊JA山形中央会長の話 徹底した国会審議が行われたとは言い難く、組合員や慎重審議を求めている多くの国民の思いに反するもので遺憾。多様な農業の共存と、再生産可能で将来展望が描ける政策の実現を目指し、今後に必要な運動を展開していく。